

更生保護制度

問題 147 保護観察に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 保護観察は、保護観察対象者の居住地を管轄する保護観察所が行う。
- 2 保護観察の対象者は、自らの改善更生に必要な特別遵守事項を自分で定める。
- 3 保護観察処分少年の保護観察期間は、保護処分決定の日から、原則として18歳に達するまでの期間である。
- 4 保護観察の良好措置として、仮釈放者には仮解除の措置がある。
- 5 保護観察の不良措置として、少年院仮退院者には退院の措置がある。

問題 148 更生緊急保護に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 対象となる者からの申出がない場合は職権で行うことができる。
- 2 対象となる者に仮釈放中の者を含む。
- 3 対象となる者が刑事上の手続又は保護処分による身体の拘束を解かれた後2年を超えない範囲内において行われる。
- 4 刑事施設の長又は検察官がその必要があると認めたとときに限って行われる。
- 5 更生保護事業を営む者に委託して行うことができる。

問題 149 保護司に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 保護司の職務に、犯罪予防を図るための啓発及び宣伝の活動は含まれない。
- 2 保護司には給与は支給されないが、職務に要した費用は実費弁償の形で支給される。
- 3 保護司は、検察官の指揮監督を受けて職務に当たる。
- 4 保護司は、保護観察対象者の居住先を訪問することは禁じられている。
- 5 保護司は、「平成30年版犯罪白書」(法務省)によると、40～49歳までの年齢層が最も多く、過半数を超えている。

問題 150 事例を読んで、Z保護観察所が行うDさんの生活環境の調整に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

U矯正施設に収容されたDさん(55歳、男性)は、施設からの釈放後に家族のもとで生活することを希望している。Z保護観察所に対し、U矯正施設からその旨の通知があった。

- 1 Dさんの生活環境の調整は、Dさんの仮釈放決定後に開始する。
- 2 Dさんの希望に関係なく、まずU矯正施設の所在地域にある更生保護施設への帰宅を調整する。
- 3 Dさんの生活環境の調整を、保護司と協力して行うことは認められていない。
- 4 Dさんの生活環境の調整の方法として、Dさんの家族その他の関係人を訪問して協力を求めることがある。
- 5 Dさんの釈放後の就業先を確保することは、Dさんの生活環境の調整を行う事項に含まれない。